

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学

社会学部

2025

Faculty of

Sociology



More Ways More Possibilities

社会を広く見つめ、新たな可能性を見出す

私たちの社会は、ますます複雑で多様になっています。既存の枠にとらわれず、自ら課題に気づき、思考を深め、より良い未来をともに創る人間を育成する。それが、龍谷大学社会学部の教育のあり方です。リアルな現場で考え、地域や世界の課題と向き合う。さまざまな事象を学び、理論と実践を往復しながら、自身の視野や関心を広げる。多様な価値観に触れ、自らを省み、生き方やしあわせを探究する。社会、そして個人の課題と向き合いながら、人間の生きる喜びやしあわせの探究を通して誰一人取り残されない社会の実現へ、ともに歩んでいきます。

現代社会領域

差別や格差、ジェンダーギャップ、環境汚染など、現代社会における日本や世界のさまざまな社会問題を幅広く学び、その解決を模索する領域。

健康・スポーツ社会領域

生活に多彩な影響を与えるようになったスポーツやメンタルヘルスなど、私たちのからだところの健康から社会のあり方を学ぶ領域。

社会学部 総合社会学科

(2025年4月新設予定)*

文化・メディア領域

芸術や文化、宗教と社会との関係、メディアやジャーナリズムと社会との関係を学び、人々のつながり方や価値観のつくられ方を研究する領域。

現代福祉領域

貧困をはじめとする福祉をめぐる社会問題と、その背景にある社会の構造を学び、誰もがその人らしく生き、安心して暮らすことができる社会の実現を実践的に目指す領域。

2025年4月

龍谷大学 社会学部は、深草キャンパス(京都市)へ移転し、**総合社会学科***を新設する予定です。

※ 2024年4月、文部科学省に設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

社会問題を当事者の視点で考え、行動する —社会学部で学ぶ意義—

現代社会は、移民・難民の受け入れやマイノリティ政策、格差の是正などの諸課題を抱えています。一つひとつを解決するには、さまざまな状況に置かれた「他者」を知ろうとする社会的な姿勢が必要です。誰もが生きやすい社会に向けて、学問はどのような役割を果たせるのか。社会調査・社会福祉・社会理論それぞれの専門領域から、社会学を学ぶ意義をお伝えします。

個別の事情を調査することが 社会課題を解決する糸口

椿原 社会調査の方法を学ぶことによって養われるのは、他人への想像力です。例えば高齢者や海外にルーツをもつ人と対話することで、接点のなかった人が置かれた社会状況を当事者の視点から理解できます。そのように社会事象を人々の置かれた状況から考える営みが、社会問題を解決するための第一歩となります。私は移民や難民の方々について調査・研究を行ってきました。国によって対応の違いはあるものの、さまざまな事情を抱える当事者のニーズと移民・難民政策にずれが生じている点は各国共通です。その問題を解き明かすには問題が生じる文脈を知る必要があるため、現場に足を運んでお話をうかがいます。社会調査法のなかでも質的調査にあたるインタビューや、人と行動を共にすることで人を理解するフィールドワークはそのための技術です。調査の前には下調べをしてテーマを決め、そのうえで現場に赴いて人と関わり、考えを巡らせる。その理論と実践のプロセスで、新たな問題や解決案を見出すことが社会調査の意義です。学生にはまず、いろいろな人に接して視野を広げる喜びと社会の課題を発見する手応えを味わってほしいです。そして、あらゆる場面で活用できる調査技術を身につけてほしいと考えます。自分と社会のつながりに思いをはせる学びは、きっと人生を豊かにしてくれることでしょう。

誰もが暮らしやすい社会の創造 そのヒントは地域の現場に

砂脇 人生のなかで、病気、失業、貧困、障がい、育児・介護、離別、災害などに遭遇することがあります。社会福祉学は、これら生活問題の社会的解決を図ることによって、誰もがその人らしく生きていくことができる社会の実現をめざす学問です。社会学部における社会福祉学の学びには、次の3つの柱があります。第1に、誰もが尊厳と権利をもったかけがえのない個人であるという〈価値〉に立脚すること、第2に、生活問題をもたらす社会の問題構造を明らかにする〈理論〉を学ぶこと、第3に、その社会的解決を図るための〈方法〉を実践的に習得することです。とくに、社会福祉学は具体的な

生活問題を対象とするため、現場での体験的学びを重視します。学生は福祉現場でさまざまな生きづらさを抱えた人々の困りごとや将来の希望を理解し、その人らしい生活の実現のために何が必要なのかを考えていきます。それは個人への直接支援にとどまりません。地域づくりから政策提言へと学びの射程は広がっていきます。地域のバリアフリーが障がい者の当事者運動によって実現されたように、当事者とともに、地域の課題を何とかしたいと考える人々が手と手を携え、知恵を出し合い、行動することによって、社会は変わっていきます。こうした社会福祉学の創造性に接することで希望ある未来を展望することができるとでしょう。

開かれた場での理論と対話が 新しい市民社会をもたらす

清家 公共財産(コモン)ともいえる言葉を使う「理論と対話」によって多くの人と社会問題を共有し、社会課題の解決を模索する。そして社会問題と課題解決へのいくつかの見通しを市民社会に提示することが、社会学の役割だと考えています。本学部は、より良い社会をみんなでめざす実践的な学問、マイケル・ブラウオイが提唱した「公共社会学」をコンセプトに、現場で人々とコミュニケーションを交わしながら思考します。その際に用いるのが「理論」です。フィールドワークでの経験を理論的にとらえ、そこで得た気づきをもとに、従来の仮説を見直していきます。加えて「対話」が重要です。例えば格差問題にアプローチする場合、再分配の仕組みを考え出すには、多様な人と議論し、合意を得る必要があります。市民はもちろん他学問領域の研究者たちとも対話することで、豊かな選択肢を導き出せます。社会問題を考察するなかで、理論的な対話を重ねることで、あなたは、他者とともにある「自分」を発見するはずです。人は、社会的動物であり、お互いに支え合って生きています。そうした生き方と結びついている社会構造や制度を認識することが、エゴイズムを乗り越えて他人と協力できる生き方につながります。「私たちは自分一人で生きているのではなく他者と関わって存在している」。この事実を楽しく学べる社会学部でのキャンパスライフは、社会的なものと不可分な「自分」を発見していく旅となるでしょう。

Relocation 2025.4

2025年4月

龍谷大学 社会学部は、
深草キャンパス
(京都市)へ移転し、
社会学部 総合社会学科※
を新設する予定です。

※ 2024年4月、文部科学省に設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

社会学部の新しい拠点となる深草キャンパスでは、大規模な施設整備を行っています。コンセプトは、「深草を森にする」。キャンパスの各所に豊かな緑地を配置し、学生や教職員はもちろん地域の方々が行き交い、多様な交流が生まれる環境をつくります。都市型キャンパスに移転することで、社会学部ならではの実習環境の多彩化を図るとともに、そのアクセスの良さから学生の課外活動や就職活動がより活発になることが期待されます。



椿原 敦子 准教授

[専門分野] 文化人類学、グローバリゼーション論、質的調査法



砂脇 恵 准教授

[専門分野] 貧困問題、ホームレス問題、生活保護制度



清家 竜介 准教授

[専門分野] 理論社会学、社会哲学

4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

興味・関心にあわせて学びをデザインし、系統的な履修を行うため、領域を設置。出願時に領域を選択します。

現代社会領域

差別や格差、ジェンダーギャップ、環境汚染など、現代社会における日本や世界のさまざまな社会問題を幅広く学び、その解決を模索する領域。



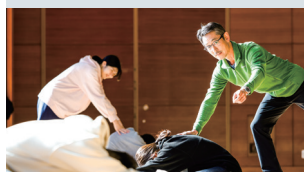
文化・メディア領域

芸術や文化、宗教と社会との関係、メディアやジャーナリズムと社会との関係を学び、人々のつながり方や価値観のつくられ方を研究する領域。



健康・スポーツ社会領域

生活に多彩な影響を与えるようになったスポーツやメンタルヘルスなど、私たちのからだところの健康から社会のあり方を学ぶ領域。



現代福祉領域

貧困をはじめとする福祉をめぐる社会問題と、その背景にある社会の構造を学び、誰もがその人らしく生き、安心して暮らすことができる社会の実現を実践的に目指す領域。



	1年次	2年次	3年次	4年次
自分が興味をもつ領域を選んで入学	学部共通の必修科目を学ぶと同時に入学した領域に応じて専門的な学びを深める 多様な授業を通じて自分の興味を鍛え、 新たなテーマを見いだす		新たなテーマに沿ってプロジェクト科目群（演習・実習）を選択 理論・実践・考察を往還し 領域横断的に学ぶ	自分のテーマを掘り下げ 卒業論文執筆
領域別に入学	学修の基盤を形成するための「基礎教育科目群」 ・基礎ゼミナールA・B ・社会学への招待 ・社会福祉学への招待 ・社会調査入門 ・社会イノベーション実践論 など ・公共社会学Ⅰ・Ⅱ ・質的調査法 ・量的調査法 ・社会学の歴史と理論 ・ソーシャルワークの基盤と専門職 など 4領域の特色ある科目「専門教育科目群」 入学時に選択した領域に応じて特定分野の専門性を身につける。専門教育科目群はプロジェクト科目群で設定されるテーマに関する理論を学修する場。 現代社会領域 ・階層と格差の社会学 ・ジェンダーと家族の社会学 ・グローバル化の社会学 ・逸脱と犯罪の社会学 ・歴史と記憶の社会学 文化・メディア領域 ・アートと社会 ・文化と表象の社会学 ・ラジオ番組制作 ・インタビュー技法 ・広告と社会 健康・スポーツ社会領域 ・健康とライフスタイル ・健康と病の社会学 ・健康心理学 ・アウトドアスポーツ演習 ・スポーツ社会学 現代福祉領域 ・地域福祉論 ・ソーシャルワークの理論と方法 ・貧困に対する支援 ・社会保障論 ・国際福祉論 <td> 領域横断的に学ぶ 3・4年次には全員が合流して学び合える「プロジェクト科目群（演習・実習）」で、自分の興味のある社会問題をテーマに、多面的な学びを深めます。 専門教育科目群 講義（理論） 往還 演習（考察） 実習（実践） </td> <td> プロジェクト科目群（演習・実習） テーマ例 学生の興味のあり方によってさまざまにテーマを設定 多文化共生と多様性 ジェンダーとセクシュアリティ 現代社会における文化と宗教 メディア実践 プロスポーツクラブと地域 農業と地域社会 公衆衛生と健康なまちづくり 都市祭礼の現状、継承と課題 ジャーナリズム アジアにおける仏教ソーシャルワーク 教育格差 スポーツマネジメント ... など </td>		領域横断的に学ぶ 3・4年次には全員が合流して学び合える「プロジェクト科目群（演習・実習）」で、自分の興味のある社会問題をテーマに、多面的な学びを深めます。 専門教育科目群 講義（理論） 往還 演習（考察） 実習（実践）	プロジェクト科目群（演習・実習） テーマ例 学生の興味のあり方によってさまざまにテーマを設定 多文化共生と多様性 ジェンダーとセクシュアリティ 現代社会における文化と宗教 メディア実践 プロスポーツクラブと地域 農業と地域社会 公衆衛生と健康なまちづくり 都市祭礼の現状、継承と課題 ジャーナリズム アジアにおける仏教ソーシャルワーク 教育格差 スポーツマネジメント ... など
学部共通コース				

公共社会学Ⅰ・Ⅱ

- ・質的調査法
- ・量的調査法
- ・社会学の歴史と理論
- ・ソーシャルワークの基盤と専門職 など

学修の基盤を形成するための「基礎教育科目群」(一部抜粋)

公共社会学I

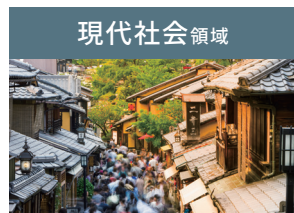
既存の学問の相対化と総合化を企図し、市民社会における対話・参加を重視し、公共社会の再構築をめざす新しい学問です。「ウェルビーイングと公共性」「文化人類学とジェンダー、公共性」「環境社会学と公共性」などのテーマを扱います。

社会イノベーション実践論

社会イノベーション実践とは、社会の課題を解決するために新しい価値を創造し、社会に変化を起こすこと。その担い手になることをめざして、理論などを学びます。

4つの領域における特色ある科目をまとめた「専門教育科目群」(一部抜粋)

入学時に選択した領域に応じて、特定分野の専門性を身につけます。専門教育科目群に配置された講義科目は、プロジェクト科目群で設定されるテーマに関する理論を学修する場。現場での実践を行う前に、基礎的な理論・知識を学び、また、現場での経験を踏まえて応用的な理論・知識を学びます。



現代社会領域



文化・メディア領域



健康・スポーツ社会領域



現代福祉領域

階層と格差の社会学

階層と格差の出発点ともいえる教育を主なテーマにしながら、家族社会学、都市社会学、犯罪社会学などを幅広く学習。社会学的な考え方を身につけます。

メディアの社会学

海外での新聞記者経験をした教員が、日中韓ジャーナリズムの現場で何が起こっているかを解説。また、日中韓のメディア事情を比較して、共通点や相違点を探ります。

健康とライフスタイル

健康づくり活動は、経済効果を上げ、人々に生きがいをもたらします。健康に暮らせるコミュニティの構築をめざして、健康の意義や生活習慣のあり方を学びます。

地域福祉論

人とのつながりが希薄化する今、行政や住民などが連携して「地域共生社会」をつくるのが求められます。地域福祉の現状や課題を学び、今後の展望を考えます。

ジェンダーと家族の社会学

現代の理想的な家族像は「近代家族」という新しいモデルにすぎません。ジェンダーの視点から家族を見つめ、当たり前と思っている家族像を相対化していきます。

インタビューの技法

ニュースがどのような形で取材され、届けられているのかを学びながら、信頼できる情報を見極める力を養います。また、インタビューや記事執筆の練習も行います。

スポーツとビジネス

スポーツ産業の歴史的背景や産業構造を概説したうえで、ビジネス上の意思決定を分析。スポーツや社会に対してどのような影響を与えることになるのかについて考察します。

児童福祉論

児童を取り巻くさまざまな問題状況を理解し、その問題状況を解決するための児童福祉の法律・専門機関・具体的なサービスについて事例をとおして学びます。

逸脱と犯罪の社会学

犯罪や自殺など、ルールから外れた「逸脱」が蔓延する社会について学びます。さまざまな問題現象を観察して、その原因や対処を考察し、社会のあり方を考えます。

文化と表象の社会学

落語、講談、ドキュメンタリー、短編映画、小津映画、歌舞伎などを取り上げます。文化と表象について、また、文化と表象をとおして現代社会について考えます。

現代の精神保健の課題と支援I

心の健康や、それを増進する方法について学びます。また、ライフサイクルに応じたメンタルヘルス、ストレスへの対処、心の病の予防などについても取り上げます。

貧困に対する支援

主に貧困問題を対象とする「生活保護制度」の現状と課題を学びます。貧困観の移り変わり、生活保護法の概要、生活保護の問題点、援助活動などを取り上げます。

多様な実習科目 (一部抜粋)

低年次から各領域の専門的な実習教育を展開。該当する領域の学生のみ学修できます。

現代社会領域 社会探究実習

主に京都地域で展開されている先駆的な社会問題解決の現場に身を投じ、協働の実践に取り組んでいく機会を提供します。受講生は自らの問題意識に応じて、若者支援・環境問題・国際協力・まちづくり等のテーマの現場のいずれかを選択し、各地域の受入先で提供されるプログラムに参加することとなります。そして、それが単なる活動体験で終わらないよう、関与しながらの観察に取り組むこととなります。

健康・スポーツ社会領域 アウトドアスポーツ演習A

アウトドアスポーツのパフォーマンスの向上はもちろん、地域資源としてのアウトドアスポーツ環境の実態理解と観光資源としての新たなアウトドアスポーツ観光パッケージの創出をめざします。アウトドアスポーツを自分の生活のなかに生涯スポーツととらえ、今後のコミュニティリーダーのコミュニケーションツールの一つとして学びます。

文化・メディア領域 映像制作演習

地域や社会課題をテーマに、実在の人物・組織に密着し、5〜10分程度のドキュメンタリー作品を制作し、企画・撮影・編集についての発展的修得をめざします。また適宜、著作権や期待権といった諸権利・諸概念や、制作倫理についても取り上げ、実技と理論との融合・往還を図ります。

現代福祉領域 インクルーシブ教育(音楽療法)

音楽療法を理解し、また知的障がいのある方々と体験することで、福祉の現場や社会生活において応用して反映できるだけの対象者のとらえ方と実践力を身につけます。音楽療法の概念および対象者のとらえ方を学んだうえで、実際に対象者と接して、個々に表出される行動や内面を捉えられるかを体験します。

共通 海外フィールドワーク

「現場主義」の立場から社会を観察して行動する社会学部の学生が、海外における研修や活動に参加することによって、国を超えた広範で多様な社会・文化の様相に触れ、異文化の「現場」において新たな経験をもつ機会を得られるようになります。

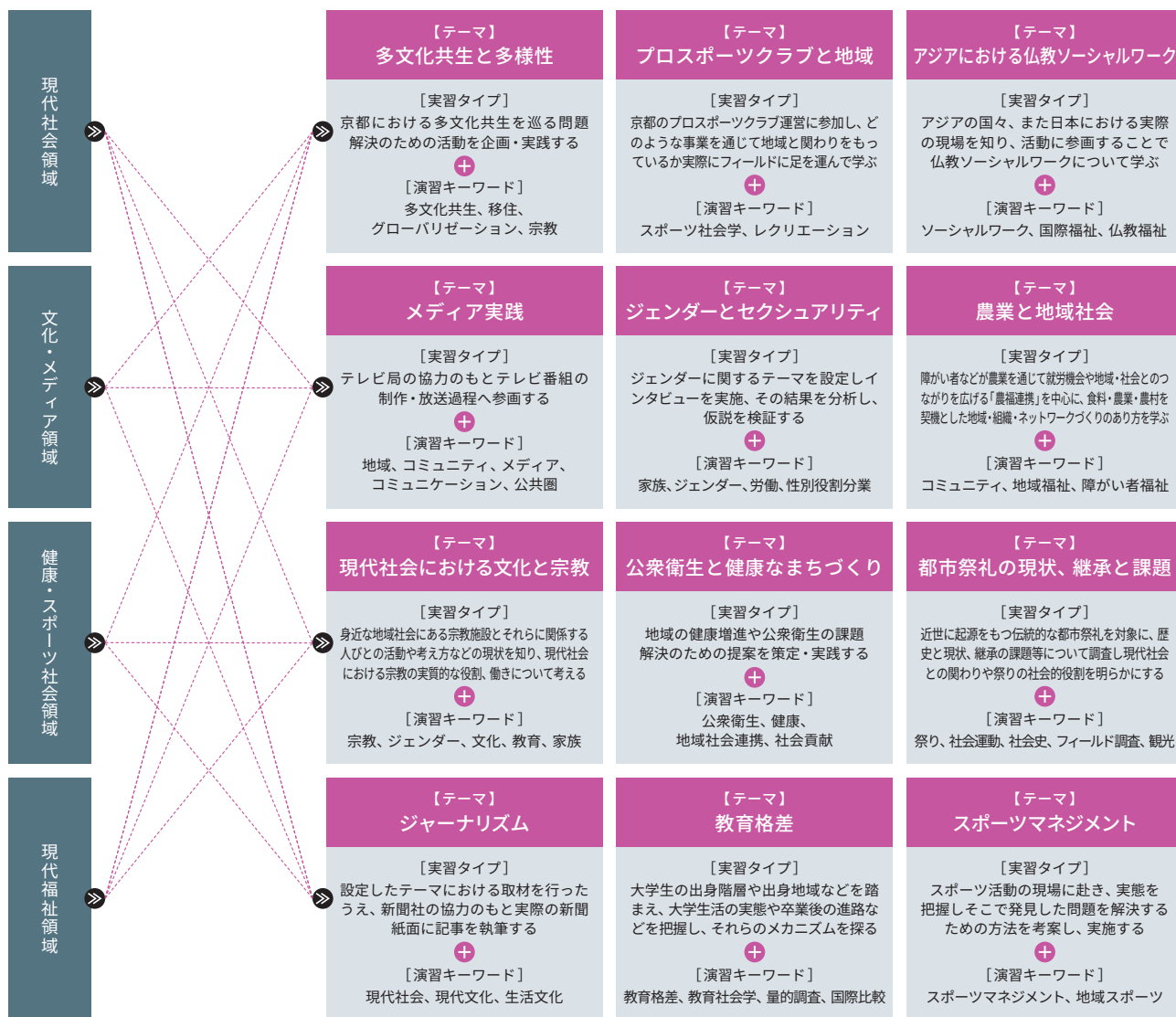
※総合社会学科は2025年4月、新設予定。2024年4月、文部科学省に設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

Projects

領域が融合して社会問題にアプローチするプロジェクト科目群

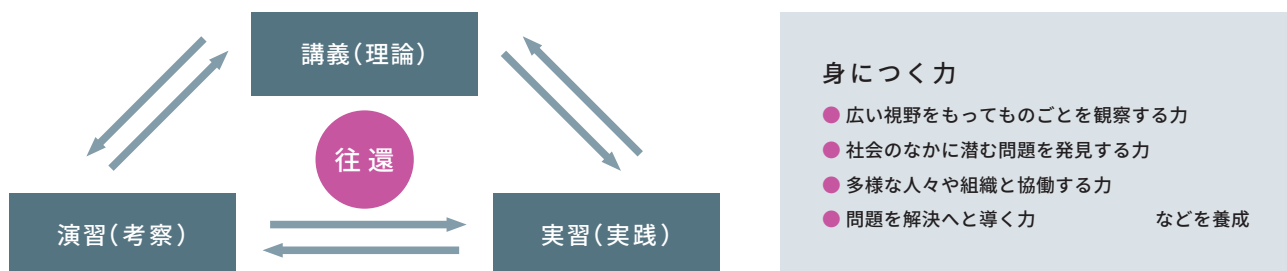
領域別に入学し、それぞれの志向性に応じた系統的な履修により特定分野の学びを深め、学生は研究したいテーマを設定します。3年次からは領域が融合し自分のテーマに沿って「プロジェクト科目群（演習・実習）」を選びます。プロジェクト科目群は、主体的な学びを深めることを目的にした教育課程。同一テーマで「演習（ゼミ）」と「実習」の少人数クラスをそれぞれ履修し、複合的な視点から研究と実習の学びを深めます。学生は各自で設定したテーマを徹底的に掘り下げ、4年次には卒業論文を執筆します。

学生の興味のあり方によってさまざまなテーマを設定（以下は一例）



（一例）

講義×実習×演習を往還し協働して問題解決できる力を身につける



住民との連携で地域課題を見つけ出し学生目線からその解決策を探る

「地域エンパワねっと・大津中央」プロジェクトは、地域の方々と連携して身近な課題を発掘し、解決策を探り、その成果を共有することをめざします。私たちのグループは、住民へのヒアリングをとおして「親子同士の交流が少ない」という課題を見つけ、その解決策として、親子同士が交流できるイベントの開催を決めました。どうすれば参加者に喜んでもらえるか、どのような企画を行うのか、ほかのメンバーと意見を出し合い、地域ボランティアのみなさんとも協力しながら準備を進めました。当日の盛況ぶりを目にしたときは、それまでの苦労が吹き飛ぶほど嬉しかったです。



横山 弘忠さん

4年生
(福井県 北陸高等学校 出身)

人の想いや自分の実体験を正確に伝え情報を的確にとらえる力を体得

「学生記者実習」では、取材対象の選定から取材、執筆までを自らがを行い、実際の新聞に掲載される記事を作成します。計画書の作成や取材対象者へのアポ取り、事前調査、インタビューなどいくつもの工程で一番苦労したのは、執筆時の適切な表現の選び方でした。限られた文字数、言葉のみで読者に正しい情報と魅力を届けるには、何が必要かを考え抜いた末、2つのポイントに気づきました。1つ目は取材対象者の想いや信念をすべて確実に文章化すること。2つ目は自らの体験を忠実に表現することです。試行錯誤を繰り返し、必要な情報を的確にとらえる力が身につきました。



小島 菜月さん

4年生
(大阪府 大阪国際大和田高等学校* 出身)
※現・大阪府 大阪国際高等学校

身の回りにある疑問を主体的に調査し統計学の手法を用いて分析する

私は「大学生の生活とギャンブル依存症」をテーマに、ギャンブル依存に陥りやすい人と拒否反応を示す人の違いについてアンケート調査を行いました。調査した内容をクロス集計して分析したところ、男性の方が、ギャンブルに依存する人と絶対的な拒否反応を示す人の差が極端であり、女性は平等にギャンブルに苦手意識をもつ可能性が高いという結果が得られました。ギャンブルによる家庭崩壊など、反作用的な影響を受けた人が拒否反応を残しやすいことは一般的に知られていますが、この男女による認識の違いは調査してみなければわからなかった結果だと思います。



奥邨 理温さん

3年生
(滋賀県立水口東高等学校 出身)

積極的なコミュニケーションで得た力を困っている人のために役立てたい

さまざまな福祉分野で活躍するソーシャルワーカーの役割や事例を座学で学び、異なる2ヶ所の施設で実習を行いました。実習は、学んだ理論や手法を応用しながら、自分の適性や課題、仕事との適合性を考える機会でもあります。実習に際して一番努力したのは、施設や事業所の利用者、職員の方々とのコミュニケーションです。気持ちの良い挨拶や相手の心をほぐす笑顔が心がけ、自ら積極的に働きかけるうちに、施設全体を俯瞰的にとらえられるようになり、人と地域との関係性への理解も深まりました。福祉をさらに深く学び、困っている方々を助けられるようになりたいです。



渡具知 沙季さん

3年生
(兵庫県立須磨東高等学校 出身)

※総合社会学科は2025年4月、新設予定。2024年4月、文部科学省に設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

Seminars

ゼミ紹介

現代社会領域 猪瀬 優理ゼミ



ジェンダー問題を紐解き、誰もが自分らしく生きられる社会をめざす

上林 陽世加さん

4年生（滋賀県立彦根翔西館高等学校 出身）

「男らしさ・女らしさ」といった価値観で生き方が制限される社会に疑問を抱き、ジェンダーなど社会の諸問題を扱う猪瀬ゼミを選びました。「ジェンダー」を専攻テーマに研究を進めてきたなかで、印象深い経験が2つあります。1つは、先生から勧められて、女性の同性カップルの方々のお話を聞いたことです。「自分たちの関係を家族に理解してもらえない。異なる価値観で育ってきたので、あきらめている」という話を聞き、家族の理解を得られない辛さを想像せずにはいられませんでした。同時に、好きな人と暮らすのさえ困難な社会に対する問題意識がさらに深まりました。

もう1つは「ジェンダーレス」という事象について調査した際のことです。ここ数年で体毛の処理やメイクが性別を問わず当たり前となりつつあり、短期間で人々の価値観が変容していく社会の流れに興味

を抱いて調査を行いました。その結果、男と女の領域は近づいているものの、そのボーダーは完全に消滅せず、見えざる取捨選択が流行のなかで働いているとの結論を得ました。この一連の探究で「ジェンダーレス」への理解が深まり、卒業論文の題材も決まりました。

卒業論文では「日本の性別における二分法的思考の問題」を主題とします。男・女という二分法的思考の成立背景や問題を明らかにし、誰もが自分らしく生きられる社会のあり方を模索します。猪瀬ゼミは、みんながそれぞれに関心のあるものを研究しており、発表や意見交換のたびに新しい視点を得られます。もともと人前で話すのに苦手意識があった私も自信をもって発表ができるようになり、大きな成長を感じています。ゼミ活動で得た学びの総括となる、充実した卒業論文になりました。

〔ゼミで取り扱う学びのテーマ（例）〕

〔現代社会領域〕

- 地域自治会と自主防災活動 ― 滋賀県草津市大路区を事例として ―
- 日本の都市計画における理想と現実
- トランスジェンダーを捉え直す ― 性規範からの解放をめざして ―
- 空気を読む教室 ― スクールカーストと友達のつながりについて ―

- 日本の同性婚の見方について ― なぜ日本では同性婚が認められていないのか ―
- 限界集落で寄宿生フリースクールを営む意義とは ― 長浜市余呉町の施設を事例に ―
- 限界集落化が住民の意識にもたらす影響 ― 京都・久美浜 ―
- 終わりのなき「美」の追求 ― 共同体なき社会における美容整形 ―
- 「ナショナルな物語」の消化について考える



文化・メディア領域 工藤 保則ゼミ



時代の変化をとらえて現代人の「心の拠り所」を探る

三沢 ちとせさん

4年生（長野県 佐久長聖高等学校 出身）

工藤ゼミが専攻する「文化社会学」は、人間の営みや社会の構造について、文化をとらえて探究を深める学問です。ゼミでは、学生一人ひとりが自由にテーマを設定して、社会のさまざまな事象や問題について考えます。自分の興味をベースに研究をすすめて成果を発表し、最後は全員で討論を行うことでさらに理解を深めます。自分では考えもしなかった意見や考え方にたくさん出会い、視野を広げられるのが工藤ゼミの魅力です。

社会学を学んでいくと、いかに価値観というものが移ろいゆくものであるかがわかります。例えば産業革命以前、人々の心の支えは宗教でした。しかし近代社会に移行してからは、お金や資本が人々の心の支えになりました。心の拠り所が、いつの時代にもなくてはならないものであり、時代とともに変容する性質をもつものであるならば、今

この時代における心の拠り所とは何なのか。私はそれを追究するため「宝塚歌劇における非公式ファンクラブ活動」を主題に、卒業論文に取り組むことにしました。趣味への没頭、あるいは趣味を軸に形成された集団への所属、人との関わりが、現代人の心の支えになっているのではないかと仮説を立て、研究をすすめています。

自分の興味をどこまでも追究できる、ゼミ生同士で学びをシェアして、知識や価値観をブラッシュアップできるのが、工藤ゼミで学ぶ醍醐味です。伝えたいことを自らの言葉で説明する力が身につき、さまざまな考え方を受け入れる柔軟性や傾聴力も培われました。周囲からの意見や質問をきっかけに見つけた課題が、さらなる学修につながっていくのだという気づきも得られました。ゼミでの学びと経験を活かし、社会に出てからも成長し続けられる人間でいたいです。

〔文化・メディア領域〕

- 美容整形—有名人のSNS公表から考える—
- ICTをつかったコミュニケーションが社会関係へ及ぼす影響
- Instagramから見る若者の姿—「いいね」を求める人々—
- 文芸表現における人間と社会—現代の課題を探る—

- 外来生物の描写の変化についての考察
- 銭湯にみるしぐさ・コミュニケーションの研究
- ファストファッションはなぜ流行するのか—現代日本の若者ファッションを中心に—
- 外国人との多文化共生の必要性和展望
- ディズニー作品におけるプリンセスの「幸せ」の変容

Seminars

ゼミ紹介

健康・スポーツ社会領域 大西 孝之ゼミ



スポーツで地域課題を解決するには？
あらゆる角度から手立てを考える

小島 祭鈴さん
3年生（京都府立東稜高等学校 出身）

もともとスポーツが好きで、多くの人に楽しんでもらいたいとの思いから「スポーツと地域の課題解決」を扱う大西ゼミを選びました。スポーツ人口が減少し、運動する場所や時間も少なくなりつつある現代において、本来のスポーツの役割をどのように活かし、地域に取り入れていけばいいのか。スポーツをとおして、地域やスポーツに関する課題・問題の解決に取り組みます。

今回参加した琵琶湖周辺でのフィールドワークは、イベントの開催者の視点に立って、物事を考える良い契機となりました。スポーツを通じたイベントでは、安全への配慮が欠かせません。主催者の立場としてイベントを成功に導くには、時間の調整や人件費の工面、利益の計算など、あらゆる面での準備が必要です。ただやってみたいという思いだけでは成し遂げられないことがたくさんあると知り、改めて準備の大切さを実感しました。



琵琶湖の自然を活かした社会活動に
期待できる社会的効果を考える

松田 司さん
3年生（奈良県立五條高等学校 出身）

私は高校時代からスポーツに興味があり、スポーツの観点から地域振興を支援する手法を学びたいと考えていました。「スポーツマネジメント」をテーマとする大西ゼミを選んだのも、スポーツを通じた社会活動について深く知りたと思ったからです。

今回はゼミ活動の一環として、企業が主催する琵琶湖での環境・スポーツ体験プログラムに参加しました。この企業は、琵琶湖周辺の自然を体感できるアクティビティを提供することで、地域の活性化に貢献しています。豊かな水源や身近な自然の素晴らしさをアピールすることで観光客を誘致する、スポーツ体験をとおして参加者の運動能力や人間力を育む、生涯スポーツとして高齢者の健康増進につなげるなど、さまざまな社会課題の解決に結びついているのがよくわかります。社会課題を社会学とスポーツの複眼でとらえ、自分に何ができるかを考えていきます。

〔ゼミで取り扱う学びのテーマ（例）〕

〔健康・スポーツ社会領域〕

- 女性のダイエット志向と社会意識
- 大学生における抑うつ症状と生活習慣の関連性
- 高齢者にとってのフィットネスクラブの存在意義
- 地域密着型プロスポーツの担い手と支え手のあり方を検討する

- フィットネスクラブのイメージ向上に向けて
- ボランティア運営によるジュニアサッカークラブの課題とその改善策
- 感情と草野球のエスノグラフィー草野球においてどのように感情が構築されるのかー
- 大学生の友人関係と孤立ー「ぼっち」から考える生きづらさ／生きやすさー
- 大学生にとって「ひとりの時間」とは



現代福祉領域 砂脇 恵ゼミ



貧困から派生する福祉・社会問題に目を向ける

小橋 春奈さん

4年生（滋賀県立東大津高等学校 出身）

社会福祉とは、生活の安定や充足に欠かせない公的な仕組みであり、私たちの誰もが密接に関係しています。社会福祉を学ぶうえで「貧困」は避けて通れない大きな課題であると感じ、生活困窮者問題を専門とする砂脇ゼミを選びました。「貧困」から派生する社会構造を追究していくなかで、私がスポットを当てたのは「一人暮らし高齢者の社会的孤立に対する地域活動」でした。3年次の地域包括支援センターでの実習がターニングポイントとなり、社会的孤立に対する地域の福祉実践を掘り下げていきたいとの思いに至りました。この実習経験は、地域性やその歴史、社会のあり方、孤立状態に陥る人の背景などを考える際にも役立っています。

砂脇ゼミはグループ活動が多く、学生同士が意見を交換したり、アドバイスし合ったりして学びを深めます。自分だけでは気づけなかった

観点から問題点を指摘してもらえるため、多角的な視点の必要性を実感できます。私もメンバーからの助言を受けて、さまざまな角度から物事を考える姿勢が身につき、より良い学びにつなげることができました。メンバーと緊密な関係性を築けるのも、このゼミの魅力です。学業と課外活動の両立でまとまった学修時間を確保できない私のために、執筆に必要な文献を紹介してくれるなど、折にふれて助けてくれます。先生も学生一人ひとりと真摯に向き合い、何度でも丁寧に指導してください。そのおかげで自分が今何をすべきかが明確になり、限られた時間でも集中して執筆に取り組んでいます。課外活動の吹奏楽コンクールで金賞を受賞した際も、「おめでとう」とあたたかな言葉をかけてくれました。先生や仲間の協力を得て、納得のいく卒業論文を仕上げることができました。

〔現代福祉領域〕

- 若者が終活について考えるーエンディングノートから始める終活ー
- 子どもの自己肯定感を高めるための支援ー家庭環境との関係性ー
- 高齢者の孤立対策についてーシニア向けSNSを活用したゆるやかなつながりの促進ー
- 児童の福祉のための里親制度ー専門里親の増加に向けた取り組みについてー

- 高齢者が自宅で暮らし続けるための新たなサービスを考える
- 集団の中で多様な子どもたちが共に育つためにー学童保育に焦点を当てー
- 生活保護制度とスティグマーイギリスの制度と歴史との比較からの考察ー
- 不登校児生徒への支援の現状と課題ー居場所の概念から見る不登校支援とはー
- 空き家問題の現状と対策ー空き家の利活用に向けてー
- 子どもの貧困対応における居場所の重要性

Life after Graduation



Graduate's Interview

財務省

大臣官房文書課広報室 勤務

里 啓さん

2017年卒業
(岡山県 岡山理科大学附属高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

地域社会やまちおこしに関する講義・実習を数多く学修しました。なかでも福島県へのフィールドワークは、メディア越しでしか被災地を知らなかった私にとって意義深い経験となりました。当事者の方から震災当時や現在の話を伺ったことで、生の情報を得る大切さを実感しました。東日本大震災を風化させないという主旨のもと行われる学科実習「フクシマいわき物産復興プロジェクト」の企画、運営に携わり、貴重な経験をさせていただきました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

財務省のホームページ運営・管理、広報活動における財務省内、関係省庁との総合調整を担当しています。業務を滞りなく行うには、全体を俯瞰する力や調整力、細かな進捗管理が必要で、一朝一夕で身につくものではありません。日々円滑に仕事ができるのは、大学での実習で企画から実行まで行った経験が活かされているからです。今後も大学で得た学びを糧に、目の前の職務を誠実にこなし、周囲に信頼される人材になりたいです。

My Background



大学1・2年生

学科の実習や私生活で、さまざまな場所を訪れました。自分の足であちこち出向くことで、見聞が広がったと感じています。



大学3年生

実習生全員で力をあわせ「フクシマいわき物産復興プロジェクト」の企画、運営を実施。無事成功に終わり、達成感を分かち合いました。



大学4年生

「ジーンズと地域活性化」をテーマに卒業論文を執筆しました。現地調査やインタビューに奔走したのも良い思い出です。



現在

財務省の広報室に勤めています。一人でも多くの方に財務省の施策を知っていただくために、日々試行錯誤しています。



Graduate's Interview

株式会社愛媛朝日テレビ

アナウンス部 兼
報道制作部 勤務 アナウンサー

松浦 宏子さん

2011年卒業
(広島県立福山誠之館高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

アナウンサーをめざし、ジャーナリズムに関する授業を学んでいました。印象深いのはラジオ番組制作の実習です。京都のコミュニティラジオ局で放送される番組づくりに参加し、気になる人にインタビューしたり、龍大生の思い出の曲とそのエピソードを紹介したりと、企画から担当させていただきました。制作に携わった番組で初めてしゃべったときは、まるで幼い頃からの夢が叶ったような気がして嬉しかったことを覚えています。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

学園祭の実行委員会やオープンキャンパスの運営団体など、4年間で7つの組織に所属して自分の興味を追求しました。場数を踏んで身についた度胸は、取材する際に余すところなく活かされていると感じます。人前で話すことに挑戦し続け、自分の言葉でわかりやすく伝えるべく試行錯誤した経験も、アナウンサーとしての礎となっています。当時の探究心を忘れず、これからも丁寧な取材をもとに、わかりやすい情報を発信していきます。

My Background



大学1・2年生

実習をとおして、京都三条ラジオカフェで放送するラジオ番組の制作を体験。初めて放送で話したときのワクワク感は忘れられません。



大学3年生

大学の留学プログラムでアメリカへ。学童保育のボランティアや現地学生サークルに参加するなど、積極的に活動しました。



大学4年生

オープンキャンパスで高校生に大学生活を紹介するイベントを企画。大学PRイベントの講演にも参加させていただきました。



現在

夕方のニュース番組のMCを担当。ほかにも、取材に行きニュース原稿を書く、自分で企画して特集を制作するなど、裏方の仕事も行います。

Life after Graduation



Graduate's Interview

京都信用金庫 勤務

鈴木 健さん

2018年卒業
(滋賀県 近江兄弟社高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

人と人、地域と住民といったつながりの希薄化が進む現代社会に問題意識を覚え、実習では地域社会の課題解決について実践的に学びました。滋賀県内の市町で「健康なまちづくりプロジェクト」に参加し「まちおこし」「高齢者の生活習慣病の克服」の2つの目的のもと、ストックウォーキング教室を開催したり、高齢者の方々と交流を行ったりと、地域活性の実践方法を学びました。当時の経験は、仕事において私のベースとなっています。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

営業担当として、法人や個人事業主への本業支援、個人顧客に対する資産運用の提案などを行っています。時代とともに事業や地域の課題も複雑化するなか、金融業に「課題解決機能」が求められています。そこで役立っているのが、「健康なまちづくりプロジェクト」への参加で身につけた課題解決力です。より良い課題解決型営業を展開できるようスキル向上に努め、お客さまに「担当してくれて良かった」と思ってもらえるような営業をめざします。

My Background



大学1・2年生

2年次の実習にて、滋賀県守山市と多賀町で「健康なまちづくりプロジェクト」を実践。翌年はプロジェクトの代表を務めました。



大学3年生

アメリカのパークレイへの語学留学は、将来を見つめ直す良い機会となりました。現地ではボランティア活動も行いました。



大学4年生

「アウトドアスポーツ演習B」を学修し、スキューバダイビングの基礎を修得。集団における役割認識など、学びの多い授業でした。



現在

個人・法人を問わず、さまざまなお客さまの課題解決のお手伝いをして、地域社会の活性化に尽力する日々を送っています。



Graduate's Interview

社会福祉法人 島根県社会福祉協議会

総務企画部 勤務

石橋 真奈さん

2012年卒業
(島根県立松江商業高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

地域課題解決をめざす現場実習プログラムを2年次に学修し、当時の大津市が抱える地域の諸課題解決に向けて一年間取り組みました。この授業をとおして、正解のない課題に向き合う姿勢と思考力、仲間と協働する力など、実社会で通用するさまざまな力が身につく、地域福祉への関心も大きく高まりました。講義を含め、人生のなかで一番勉強に一生懸命になれた4年間でした。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

総務企画部に在籍し、主任を務めています。組織の採用・広報活動や、県内の社会福祉協議会の認知拡大のためのWebページの作成など、広報に関する仕事を中心に行っています。問題解決に向けて自ら考え、周囲と協働して行動を起こす大切さを、現在も忘れることはありません。多くの方と関係を構築できているのも、「現場主義」の学び、先生方の指導のおかげだと感謝しています。

My Background



大学1・2年生

地域課題の解決をめざす現場実習プログラムに取り組んだことをきっかけに、地域福祉への関心がさらに深まりました。



大学3年生

オープンキャンパスを運営する「アドミッションサポーター」2期生として活動していました。企画・運営などの経験は、今も役立つ機会が多くなります。



大学4年生

就職活動後、学内で募集されていた海外スタディーツアーに参加。カンボジア、ベトナムで孤児院訪問などを行いました。



現在

社会福祉協議会での仕事の傍ら、地元で学習支援ボランティア団体を立ち上げ、休日は地域の中高生の支援を行い9年目になりました。



社会学部の資格・就職

総合社会学科 (2025年4月新設予定)※

取得可能な免許・資格

- 中学校教諭一種免許状 (社会) ※1
- 高等学校教諭一種免許状 (公民) ※1
- 社会調査士
- レクリエーションインストラクター ※2
- 健康教育専門士 ※2
- 本願寺派教師資格
- 社会福祉士 (国家試験受験資格) ※4
- 精神保健福祉士 (国家試験受験資格) ※3 ※4

※1: 教職課程認定予定。ただし文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります
 ※2: 健康・スポーツ社会領域の学生のみ取得可能
 ※3: 精神保健福祉士 (国家試験受験資格) は入学後、資格取得に際して選考等の制限が入る場合があります
 ※4: 4年間で社会福祉士 (国家試験受験資格) と精神保健福祉士 (国家試験受験資格) の両方を取得することはできません

めざす職業・進路

- メーカー (食品、化粧品、化学、インテリア、アパレル、印刷、自動車、電気・電子機器、半導体・電子部品、住宅、繊維など)
- 商社
- 銀行・証券・保険・金融
- 百貨店・専門店・流通・小売
- サービス・インフラ (観光、スポーツ関連、教育、福祉、不動産、航空、鉄道、エネルギー、人材サービス、コンサルタントなど)
- 広告・通信・マスコミ (出版・雑誌、放送・テレビ・ラジオ、新聞、通信)
- IT・ソフトウェア・情報処理
- 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を活かし、行政機関や相談支援事業所、各種社会福祉施設等の福祉分野など
- 公務員 (国家・地方)、国際機関の職員、NPOやNGO、社会的企業など

※2024年4月文部科学省に設置届出書類提出。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

資格取得状況

少子高齢化がすすむ現代社会において、福祉のプロフェッショナルを求める声が年々高まっています。
 現行の現代福祉学科では社会福祉士などの資格取得をめざす学生が多く、合格率は常に全国平均を上回っており、優れた人材を輩出しています。

2023年度
社会学部 社会福祉士
国家試験合格率 (新卒)

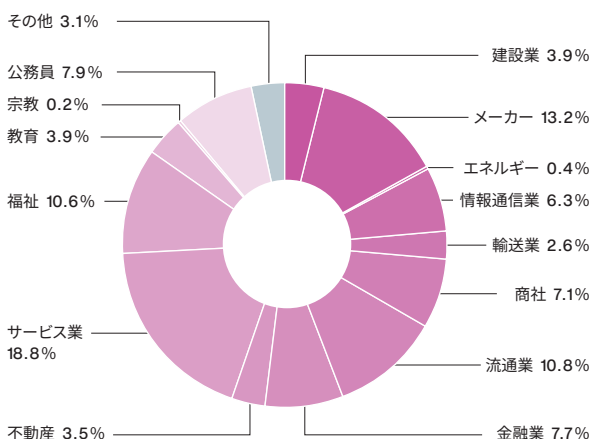
71.3%

2023年度
社会学部 精神保健福祉士
国家試験合格率 (新卒)

92.3%

就職状況 (2023年度卒業生)

社会学部



〔主な就職先〕

- 株式会社伊藤園
- レンゴー株式会社
- 日本製鉄株式会社
- 三菱重工業株式会社
- 株式会社村田製作所
- 東洋シャッター株式会社
- パナソニック株式会社
- スズキ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 岩谷産業株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 株式会社みずほ銀行
- 株式会社京都銀行
- 株式会社関西みらい銀行
- 野村證券株式会社
- 日本生命保険相互会社
- 株式会社京都新聞社
- 富士通株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社NTTデータ関西
- 富士ソフト株式会社
- 株式会社山陰放送
- 株式会社ニトリ
- スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
- 日本赤十字社
- 日本郵便株式会社
- 社会福祉法人京都市社会福祉協議会
- 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
- 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
- 法務省
- 国税庁 (国税専門官)
- 京都府庁
- 滋賀県庁
- 奈良県庁
- 京都府教育委員会 など

※主な就職先は業種順に記載



京都府庁 内定

社会学部では、幅広い社会問題を対象に多様な角度から研究します。私は以前から興味があった環境問題を取り上げ、その解決策を考えました。特に注力したのは、障がいのある方と一緒に農作業を行う社会共生実習です。繊細な農作物管理をとおしてコミュニケーションの大切さと難しさを学び、スキルの向上に努めました。今後どのような業務を任されても、このコミュニケーション力は必ず活かされると確信しています。

瀬戸 優花さん

4年生

(滋賀県立水口高等学校 出身)

京都新聞社 内定

自分の興味ある分野を選択して学べるのが、社会学部の魅力です。私は高校時代からマスコミ業界に関心があり、びわ湖放送と協働して行われた実習では、生放送のお手伝いや映像制作にも携わせていただきました。実際の現場を経験したおかげで、自分の将来像を想像しやすく、面接でもより思いを具体的に伝えられました。内定先では、大学生活の4年間で知った京都の魅力を、自分の言葉で発信していきたいです。

佐野 健太さん

4年生

(徳島県立富岡西高等学校 出身)



パナソニック株式会社 内定

社会学部では、地域コミュニティとの関わり方を実践的に学び、コミュニティリーダーとなるために必要な素力を養いました。学びを深めていくうちに、今の社会に何が必要かを見極める力も身についたと感じます。就職活動においては、実習や演習、野球部で培ったコミュニケーション能力を高く評価していただきました。社会で生きていくうえで必要なスキルを磨きながら、今後も努力を重ねていきます。

伊藤 岳斗さん

4年生

(静岡県 磐田東高等学校 出身)

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 内定

福祉の学びを深めるにつれ「地域福祉」への関心が高まり、社会福祉協議会での実習をとおして、より身近な地域で福祉の推進に携わりたいと強く思うようになりました。高齢者・障がい者・児童と多様な福祉分野を学ぶなかで自分の将来像が明確になり、その結果、面接でも志望動機や入職後の目標も熱意をもって伝えることができました。入職後も学ぶ姿勢を忘れず、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりに貢献したいです。

奥田 美森さん

4年生

(京都府立菟道高等学校 出身)



龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 社会学部

私たちの社会は、ますます複雑で多様になっています。

既存の枠にとらわれず、自ら課題に気づき、思考を深め、
より良い未来をともに創る人間を育成する。

それが、龍谷大学社会学部の教育のあり方です。

リアルな現場で考え、地域や世界の課題と向き合う。
さまざまな事象を学び、理論と実践を往復しながら、
自身の視野や関心を広げる。
多様な価値観に触れ、自らを省み、
生き方やしあわせを探究する。

社会、そして個人の課題と向き合いながら、
人間の生きる喜びやしあわせの探究を通して
誰一人取り残されない社会の実現へ、
ともに歩んでいきます。

深草
キャンパス

京都市伏見区深草塚本町67
077-543-7760
shakai@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分
京阪「京橋」駅 → 約41分
近鉄「奈良」駅 → 約43分
JR「三ノ宮」駅 → 約63分

2025年4月、社会学部は深草キャンパスに移転します。



<https://www.soc.ryukoku.ac.jp>

